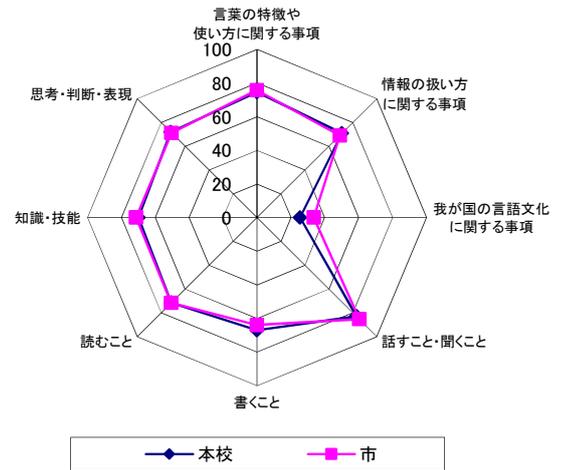


宇都宮市立昭和小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| 領域別 | 事項 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 74.7 | 75.8 | 77.5 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 70.9 | 69.1 | 67.0 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 25.5 | 33.5 | 37.2 |
| | 話すこと・聞くこと | 83.0 | 85.5 | 86.5 |
| | 書くこと | 67.0 | 63.9 | 65.8 |
| | 読むこと | 71.5 | 71.6 | 69.5 |
| 観点別 | 知識・技能 | 69.9 | 71.3 | 72.9 |
| | 思考・判断・表現 | 72.0 | 71.3 | 71.4 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

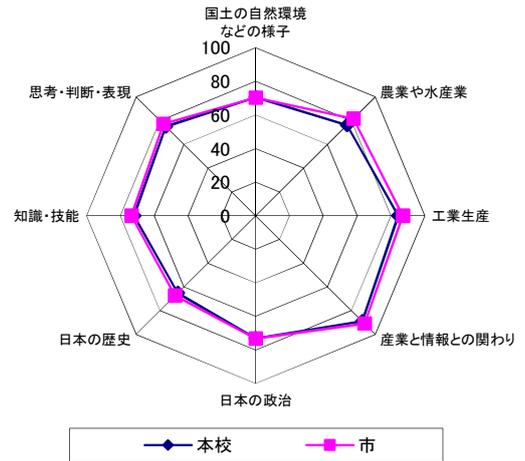
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|--|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 平均正答率は、74.7%で、市の平均と同程度だった。 ○「三字の熟語の成り立ちについて理解している。」をねらいとした設問において、平均正答率は72.7%で市の平均を5.5ポイント上回った。 ●漢字の読み書きの平均正答率は、市の平均と比べて、高いものがある一方、低いものもある。 | ・漢字を繰り返し練習したり、国語科の授業だけでなく、普段の生活の中で漢字で書く習慣を付けさせたりすることで、文の中で漢字の読み書きが身に付くようにする。 ・漢字を練習する際には、読み書きだけではなく、その意味についても随時触れ、日常生活でも正しく使えるようにしていく。 ・定期的に漢字テストなどを実施することで、着実な漢字力を身に付けていく。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | 平均正答率は、70.9%で、市の平均と同程度だった。 ○「原因と結果など情報と情報との関係について理解している。」をねらいとした設問において、平均正答率は、市の平均と同程度だった。 | ・文の構成や文法などについては、国語科の授業を基本とし、他教科でも正しい表記の仕方を意識して、文章を読んだり書いたりできるようにしていく。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | 平均正答率は、25.5%で、市の平均を8.0ポイント下回った。 ●「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している。」をねらいとした設問において、平均正答率は25.5%で市の平均を8ポイント下回った。 | ・言語学習の際には、意識的に和語、漢語、外来語の意味について触れたり、その言葉の成り立ちについて言及したりすることで、言葉について具体的に理解できるようにしていく。 |
| 話すこと・聞くこと | 平均正答率は、83.0%で、市の平均を2.5ポイント下回った。 ●インタビューの内容を聞き取る設問において、全ての設問において、市の平均をやや下回った。 | ・学校生活全般において、話の内容やその意図について聞き取る習慣を付けさせていく。 ・話し合いの際には、話の内容を、「事実」「理由」「結果」などに分けながら聞き取る習慣を身に付けさせ、内容に合った質問をする機会を設けていく。 ・ペア活動やグループ活動では、伝え方や話し方の工夫を意識して学び合いができるよう指導していく。 |
| 書くこと | 平均正答率は、67.0%で市の平均を3.1ポイント上回った。 ○「目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしている。」「予想される反論とそれに対する意見を書いている。」をねらいとした設問において、市の平均を大きく上回った。 ●「目的や意図に応じて、書くことを選び伝えたいことを明確にしている。」をねらいとした設問において、市の平均を大きく下回った。 | ・メモから下書きに書き直す活動を体験させることで、メモの項目が下書きのどの部分になっているか、具体的に理解できるようにする。 ・情報の整理に仕方について、国語科で学んだことを基に、他教科でも意識して指導していく。 |
| 読むこと | 平均正答率は、71.5%で、市の平均と同程度だった。 ○説明文の内容を読み取る設問において、市の平均をやや上回った。 ●物語の内容を読み取る設問において、市の平均を下回るか同程度だった。 | ・国語科の物語文を扱う際には、情景描写や心情を表す叙述に着目させ、その表現から分かる心情について読み取る力を付けていく。 ・様々な表現や描写に触れさせるため、読書についても、さらに推進していく。 |

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|--------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 70.5 | 70.3 | 66.4 |
| | 農業や水産業 | 76.4 | 81.6 | 75.3 |
| | 工業生産 | 84.2 | 87.0 | 77.7 |
| | 産業と情報との関わり | 89.1 | 91.0 | 81.3 |
| | 日本の政治 | 73.2 | 73.2 | 75.3 |
| 観点別 | 日本の歴史 | 65.2 | 67.4 | 68.5 |
| | 知識・技能 | 71.9 | 73.5 | 72.5 |
| | 思考・判断・表現 | 75.2 | 77.3 | 71.5 |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

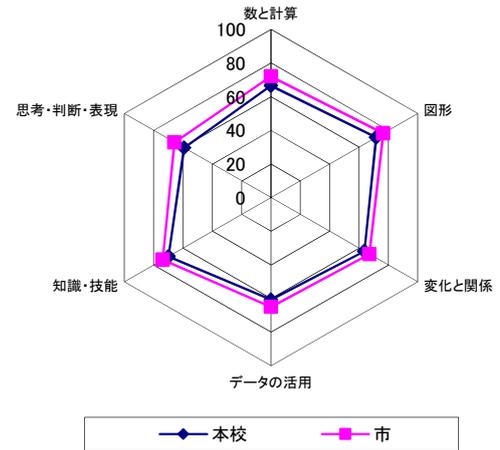
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------------|--|---|
| 国土の自然環境などの様子 | 平均正答率は、70.4%で、市の平均と同程度だった。 ○「季節風について理解している。」をねらいとした設問において、平均正答率は61.8%で市noを3.3ポイント上回った。 | ・国内の地理について理解を深めるため、白地図やICT教材などの視覚的資料を活用し、一層の定着を図る。 ・国内の産業が抱える課題について、総合的な学習の時間など教科を横断的に扱うことにより、児童の日常生活と関連して考えることができるようにする。 |
| 農業や水産業 | 平均正答率は、76.4%で、市の平均より5.1ポイント下回った。 ○「米の生産が盛んな地域について、地図を読み取っている。」をねらいとした設問において、平均正答率は85.5%で市の平均と同程度だった。 ●「米の品種改良についての理解をもとに、資料を読み取り表現している。」をねらいとした設問において、平均正答率は52.7%で市の平均を14.4ポイント下回った。 | ・グラフや資料から自分の考えを見出したり、考えの根拠となる資料を選択したりするなどの学習を通して、社会的思考力を高めていく。 ・生産者と消費者の立場から資料を読み取ることを通して、水産資源を守ることが自分たちの生活とどのように関わってくるかを考えられるようにする。 |
| 工業生産 | 平均正答率は、84.2%で、市の平均と同程度だった。 ●「日本の貿易の変化について、資料をもとに表現する。」をねらいとした設問において、平均正答率70.9%で市の平均を6.8ポイント下回った。 | ・工業生産の変化に対応できる柔軟な考えがもてるよう、児童の日常生活と関連して考えたり、話し合ったりする機会を設ける。 ・自動車の生産工程や流通などの様子はデジタル教材を活用して理解を深めてきた。今後も実際に見学に行ったり、デジタル教材を活用したりして興味・関心をもたせ、知識を定着させていく。 |
| 産業と情報との関わり | 平均正答率は、70.4%で、市の平均と同程度だった。 ○「季節風について理解している。」をねらいとした設問において、平均正答率は61.8%で市の平均を3.3%上回った。 | ・政治は国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしているということを理解するため、各種資料から読み取ったことをもとに、考えたことを自分の言葉で記述する機会を増やしていく。 ・学習内容に関連したニュースや新聞などの話題を児童にも理解できるように紹介したり、資料を提示したりして、児童が興味をもって取り組めるような授業の展開を図っていく。 |
| 日本の政治 | 平均正答率は、73.2%で、市の平均と同程度だった。 ○「租税の役割についての理解をもとに判断している。」をねらいとした設問において、平均正答率83.6%で市の平均を16.6ポイント上回った。 | ・政治は国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしているということを理解するため、各種資料から読み取ったことをもとに、考えたことを自分の言葉で記述する機会を増やしていく。 ・学習内容に関連したニュースや新聞などの話題を児童にも理解できるように紹介したり、資料を提示したりして、児童が興味をもって取り組めるような授業の展開を図っていく。 |
| 日本の歴史 | 平均正答率は、65.2%で、市の平均と同程度だった。 ○「鎌倉幕府の政治の仕組みの理解をもとに、資料を読み取っている。」をねらいとした設問において、平均正答率は67.3%で市の平均を7.4ポイント上回った。 ●「能について理解している。」をねらいとした設問において、平均正答率は50.9%で市の平均を11.2ポイント下回った。 | ・日本のおおまかな歴史や先人の業績、文化遺産などを理解するために、一人一台端末のAIドリルを活用し、繰り返し知識の定着を図っていく。 ・授業で身に付けた知識をもとに、歴史的事象との関連や時代背景についてなど、児童が主体的に調べたりまとめたりする機会を繰り返し設け、理解を深めていく。 |

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と計算 | 66.6 | 72.1 | 74.6 |
| | 図形 | 71.7 | 76.5 | 76.1 |
| | 変化と関係 | 63.6 | 67.1 | 59.7 |
| | データの活用 | 60.7 | 65.0 | 64.5 |
| 観点別 | 知識・技能 | 69.9 | 73.8 | 74.7 |
| | 思考・判断・表現 | 59.2 | 65.8 | 61.9 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

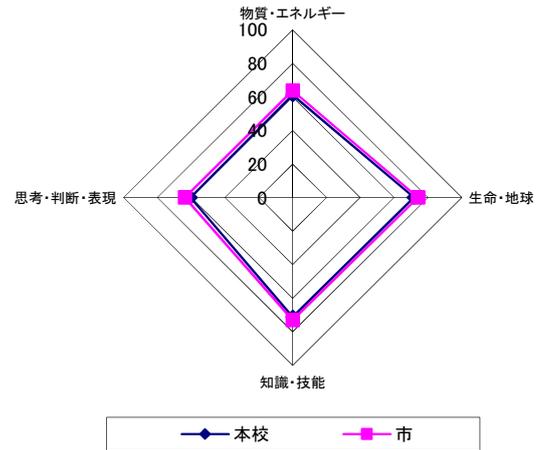
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|--|---|
| 数と計算 | <p>平均正答率は、66.7%で、市の平均を5.5ポイント下回った。</p> <p>○小数のかけ算の答えを求める設問において、平均正答率は83.6%で市の平均をやや上回った。</p> <p>●小数のわり算の答えを求める設問において、平均正答率は50、5%で市の平均を大きく下回った。</p> <p>●文字式に表し、答えを求める設問において、市の平均を下回った。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・分数の計算、小数の計算共に、計算の仕方によって、正答率の差が見られる。計算の仕方を理解した上で反復練習ができるよう指導の徹底を図る。 ・少人数指導や習熟度別指導で個に応じた指導を実践したり、ドリル等に繰り返し取り組ませたりすることで、計算力の定着を図っていく。 |
| 図形 | <p>平均正答率は、71.7%で、市の平均を4.8ポイント下回った。</p> <p>○複雑な立体の体積を2つの直方体に分けて求める設問において、平均正答率は72.7%で市の平均をやや上回った。</p> <p>●対称な図形に関する設問において、全ての設問で市の平均を下回った。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・実際に作図をしたり、線を引いたりしながら、線対称や点対称な図形の性質が理解できるよう、指導していく。 ・平行四辺形や円の面積を求める公式を理解させるだけでなく、いろいろな向きの面積を求めるなどして、図形の見方に慣れさせる。 |
| 変化と関係 | <p>平均正答率は、63.6%で、市の平均を3.5ポイント下回った。</p> <p>○円グラフを正しく読み取る設問において、平均正答率は61.8%で市の平均を5.1ポイント上回った。</p> <p>●平均を求める設問において、平均正答率は58.2%で市の平均を大きく下回った。</p> <p>●単位量あたりの大きさの求め方を説明する設問において、平均正答率は47.3%で市の平均を大きく下回った。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・平均を求める問題は、平均の意味を理解させ、値に0が入るなど様々な問題を解くことで、習熟を図っていく。 ・単位量の意味を理解させ、答えの出し方を言葉や式で説明できるように、自分の考えを具体的な数量を根拠に説明する活動を随時取り入れていく。 ・記述式の問題に抵抗なく取り組めるよう、意識的に解き方の説明を書かせる時間を設ける。友達と意見を交流する場を設け、言葉で説明する力を着実なものにしていく。 |
| データの活用 | <p>平均正答率は、60.7%で、市の平均を4.3ポイント下回った。</p> <p>○度数分布表を完成させる設問において、平均正答率は87.3%で市の平均と同程度だった。</p> <p>●ヒストグラムの特徴を基に平均値付近の記録が一番多いわけではないことを説明する設問において、平均正答率は23.6%で市の平均を大きく下回った。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・記述式の問題では、言葉の意味を押さえて資料を読み取り、具体的な数値を基に自分の考えをまとめられるように指導していく。 ・算数科だけでなく、他教科でも様々なデータを取り上げ、資料を活用することで、データの見方の習熟を図っていく。 |
| | | |
| | | |

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 61.2 | 63.8 | 61.6 |
| | 生命・地球 | 71.7 | 74.1 | 73.3 |
| 観点別 | 知識・技能 | 71.1 | 73.0 | 71.3 |
| | 思考・判断・表現 | 60.4 | 63.8 | 62.5 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|--|--|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は、61.2%で、市の平均を2.6ポイント下回った。</p> <p>○水溶液の性質で、「蒸発させたときに何も残らなかった水溶液には、気体が溶けていることを理解している。」をねらいとした設問において、平均正答率は40.0%で市の平均を8.9ポイント上回った。</p> <p>●ふりこのきまりで「ふりこの周期の測定方法を理解している。」をねらいとした設問において、平均正答率は47.3%で市の平均を14.4ポイント下回った。</p> | <p>・ワークシートやノートへ書く活動を工夫して日常的に練習することで、論理的な推論「もし～ならば、・・・となるはずだ。」という仮説演繹的な考え方を身に付けるようにする。</p> <p>・実験後に実験の結果・考察をまとめるだけでなく、実験前に「期待される結果」を言語化させる指導を意識的に取り入れるようにする。</p> |
| 生命・地球 | <p>平均正答率は、71.7%で、市の平均を2.4ポイント下回った。</p> <p>○動物のからだのつくりとはたらきで「仮説を確かめる実験を構想できる。」をねらいとした設問において、平均正答率は74.5%で市の平均を6.1ポイント上回った。</p> <p>●流れる水のはたらきで、「予想が正しかった場合に得られる実験の結果を推測できる。」をねらいとした設問において、平均正答率は52.7%で市の平均を9.2ポイント下回った。</p> | <p>・実験を行う際に立てた仮説と、具体的な実験結果とを結びつけるために、「見通し」を立てる力を育てる。その際、仮説を図や文章で詳しく書き出したり、実験後に、なぜその結果を予測できたかの根拠を確認したりすることを意識して指導していく。</p> <p>・「予想」と「結果の推測」を区別させ、単に「○○だと思う。」だけでなく、「○○の条件を変えたから、△△の部分がより深く削れるはずだ。」と論理的に記述させるように指導していく。</p> |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立昭和小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|-------------------------|--|--|
| 基礎・基本定着のための「じっくりタイム」の実施 | 基礎・基本を確実に定着させるため、朝の学習時に学習ドリルやAI型個別学習ドリルを活用して繰り返し学習を行い、基礎的な学習内容の定着を図っている。 | 全ての教科において、基礎問題の校内平均正答率は、市の平均正答率を下回った。 |
| 家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫 | 学力アップ月間を年2回設けている。「家庭学習の記録」や啓発資料を活用して、家庭との連携を図りながら、家庭学習の習慣化を図っている。 | 「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に対する肯定的回答の割合は1,2,5年生は90%以上だが、3,4,6年生では90%に届かない結果となり、学年で差が見られた。4年生以上の質問事項、自ら取り組む態度に関わる「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に対する肯定的回答の割合は4,5,6年生全ての学年で60%をやや上回る結果となった。 |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

各学年ともにねらいを達成するために意欲的に学習に取り組む様子がうかがえる。家庭学習については、取組や学習時間に学年差、個人差が見られるので、年度始めに家庭学習の仕方について共通理解を図ったり、学力アップ月間をきっかけに家庭学習に進んで取り組んだりできるよう、家庭と連携しながら指導の充実を図りたい。

国・県・市の結果を踏まえ、当該学年の学習に関する指導だけではなく、単元の導入時に前学年までの関連事項の定着状況を把握し、必要に応じて復習をする機会を設けるようにする。

学年や発達段階に応じて、文章の構成や言葉の意味などを意識させながら、文章を書く活動を取り入れていく。また、まとめや振り返りの場面で、大切な事項・言葉を共通のキーワードとして文章を書かせたり、児童の振り返りを全体に紹介したりして、書く活動を充実させていく。